

1) 学術情報データベースの拡充

データベースの概要

1999年度より総合情報センターでは、学習・教育・研究を支援するため、基幹的な学術情報を提供しています。そのひとつである「コア・データベース」は、本学園の学生・教職員は、キャンパス内のLANに接続されたコンピュータからアクセスすることができ、なかには自宅のコンピュータから総合情報センターホームページにアクセスすれば利用できるものもあります(RAINBOWまたはAPU-NETのIDとパスワードが必要です)。

2002年度利用いただけるコア・データベースは下記の通りです。

日経テレコン21

日本経済新聞等4紙の新聞記事検索や、企業・財務情報など日経コンテンツが利用できるデータベース。

朝日新聞DNA

朝日新聞(本紙・地方版)の記事、AERA、週刊朝日等の全文データベースサービス。1984年8月以降から昨日までの記事検索をすることができます。

Elsevier Science

Elsevier Scienceが提供する海外学術雑誌165タイトル(2002年現在)の電子ジャーナル。

LEXIS-NEXIS

世界各国の法令・判例文献全文を収録した海外法律情報LEXISや新聞などを全文収録する世界最大の記事情報NEXISなど、LEXIS-NEXISが提供する総合的な学術研究情報データベース。

ProQuest

アメリカBELL&HOWELL Information and Learning(旧UMI)が提供する外国文献の全文データベースサービス。人文・社会科学分野を広くカバーしており、約2,500タイトルが検索対象となっています。

Dialog Select

DIALOGから約300種のデータベースが厳選され、著名な学術雑誌(そのうち4,000点以上は全文情報)、世界的な新聞・ニュース情報を提供。

OCLC FirstSearch

OCLC(世界25,000館以上の図書館が加盟している非営利団体)が蓄積した世界最大の書誌データベースWorldCatを中心に、人文社会・新聞・雑誌・経済など約80種のデータベースを搭載。

洋雑誌コンテンツ

オランダSwets Blackwell b.v.より提供される外国雑誌の論文タイトル情報。約11,000タイトル、1,500万件の論文の論文を検索することができます。

和書コンテンツ

1986年以降に刊行された和書の、目次や「おび」に記載された情報を収めたデータベース。書誌情報だけでは対応できない、より詳しい本の「内容」情報を扱っています。(収録コンテンツは、約70万件)

出版情報DB

複数の国内出版流通企業より提供される書籍情報を加工したもの。現在出版されている書籍の情報を入手することができます。(収録件数は、約150万件)

NACSIS-IR/ELS

国立情報学研究所が提供する情報検索・電子図書館サービス。「雑誌記事索引」等NACSIS-IRによるデータベース検索や日本の学協会が発行する雑誌の記事検索とイメージ印刷(NACSIS-ELS)が利用できます。

利用促進に向けた取り組み

衣笠図書館、メディアセンター、メディアライブラリーとともに、図書館員らによるデータベース利用ガイダンスを毎年開催しています。ガイダンスへの参加者数の増加に伴って、各種データベースを使って必要な情報を手に入れる機会も増えています。

新入生ガイダンスとしては、衣笠図書館では法学部、産業社会学部、文学部、政策科学部を対象に、中野記念ホールにて平和ミュージアム見学と組み合わせ、学術情報データベース(RUNNERS)の活用方法、衣笠図書館の利用方法やオープンパソコンルームの案内といった内容のプレゼンテーション形式のガイダンスに取り組みました。国際関係学部については、2000年度より、基幹科目「国際関係学研究法入門」の2コマにて「資料・文献の探し方-スカベンジャーハント(宝探し)-」として図書館の使い方にとどまらず様々なデータベースを実習方式で紹介する取り組みを開始しました。

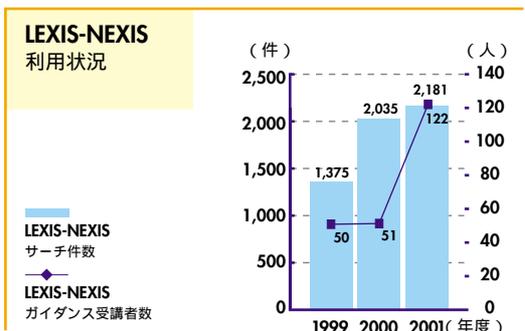
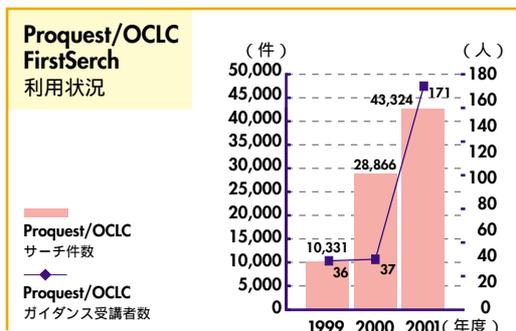
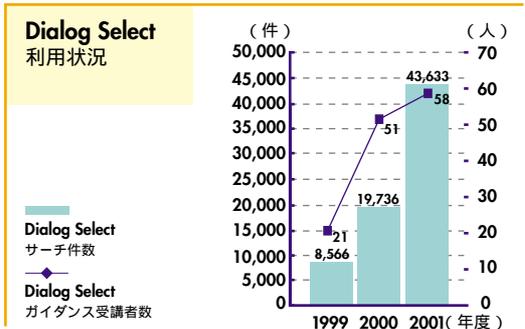
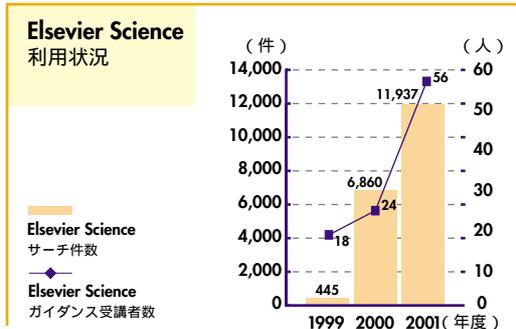
経済・経営学部では、毎年新入生にデータベースを使った課題を課しています。メディアライブラリーではこれにあわせてガイダンスを開催し、新入生がスムーズに課題に取り組める機会を設定しています。



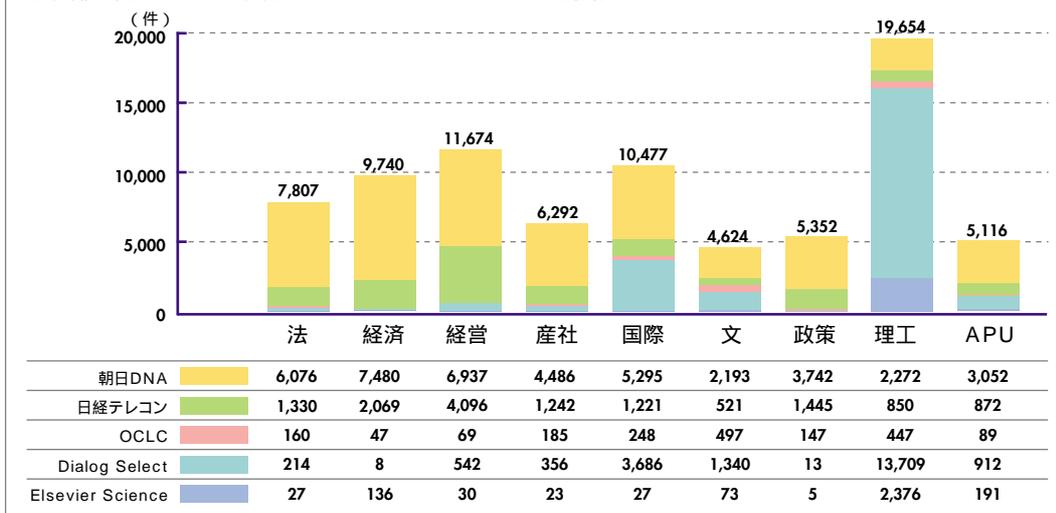
その他特筆すべき取り組みとして、衣笠図書館では、2001年12月6日～7日の2日間にわたって、本学法学部教員を講師に迎え「英米法情報のためのLexis講座」と題した講座を開催しました。ここには、本学だけでなく他大学、他機関からも多数の参加者がありました。

理工学部ではコア・データベースの中でもとりわけ、Dialog Selectの利用頻度が高い状況にあります。Dialog Selectは自然科学系を中心とした情報が提供されています。メディアセンターでは、Dialog Selectについてのガイダンスを開催し、レポート作成や試験、文献検索などに有効活用できることを説明しています。

コア・データベース利用状況とガイダンス受講者数



【学部別】2001年度データベースログイン総回数



2) レファレンスサービスの高度化

教学システムが急速に変化する中で、基礎学力の修得からより高度な課題への挑戦にも対応できる学生を育てること、意欲と力のある学生がより高いレベルに到達するための学習・教育・研究の推進を可能にするような学術情報サービスを提供していくことが求められています。様々な学術情報を検索するスキルを向上させていくために利用者を援助する仕組みも必要であり、その解決策のひとつとして2001年度より専門的なレファレンス・ライブラリアンを両キャンパス学術情報施設に配置しました。「レファレンスサービス」の内容は大きく3通りに区分することができます。

- その1 利用支援(資料の探し方や様々なデータベースの利用方法やより高度な活用方法についての支援)
- その2 事項調査(ある事柄を調べようとするとき、あるいはどの本を読めば良いのか分からない場合の調査)
- その3 所在調査(希望の資料をどの図書館で所蔵しているかの調査)

近年の傾向としては、レファレンス件数の中で所在調査の占める割合が減少してきています。これは、利用者が他大学OPAC(蔵書検索)情報や国立情報学研究所の提供するWEB-CAT(<http://www.webcat.nii.ac.jp>)といったインターネット上のデータを活用して、資料の所在を調査する傾向が強まったことによるといえます。総件数が減少しているのは、データベース講習会や資料検索セミナーといった各種ガイダンスを積極的に開催することによりユーザが自立化してきたことに加え、2001年9月にリニューアルオープンした修学館リサーチライブラリーにおいてもレファレンスサービスが強化されたことによるものといえるでしょう。

修学館リサーチライブラリーの開設について

修学館閲覧室(1階)は、リサーチライブラリーとしてリニューアルオープンしました。カウンターには、レファレンス・ライブラリアンが常駐し、研究活動をサポートしております。また閲覧席も増設し、全ての座席にて無線LANを利用することができます。

閲覧室の様様

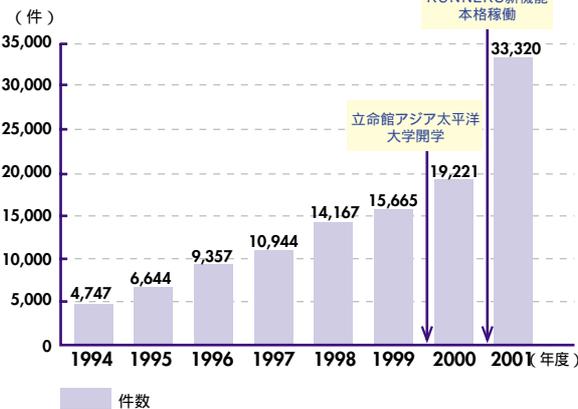


カウンターの様子

3) オンライン予約・取り寄せ状況 (RUNNERS機能のさらなる利用拡充)

2000年度より稼働している学術情報システム(RUNNERS)の新規機能として、利用者自身がインターネットを介してマルチキャンパス(衣笠・BKC・APU)下で資料の取り寄せと貸出中圖書の予約ができる機能を追加しました。2000年度当初は試験運用であったため、本格的に稼働開始したのは2000年9月から、年度区切りですと2001年度からとなります。オンライン予約・取り寄せを開始する以前(1999年度)と2001年度との比較においては、2倍以上の件数増加となっております。

【資料の予約・取り寄せ状況】



1999年までの件数は学内相互利用件数のカウント。
2000年以降は、オンライン予約取り寄せ件数のカウント

4) 図書利用実態

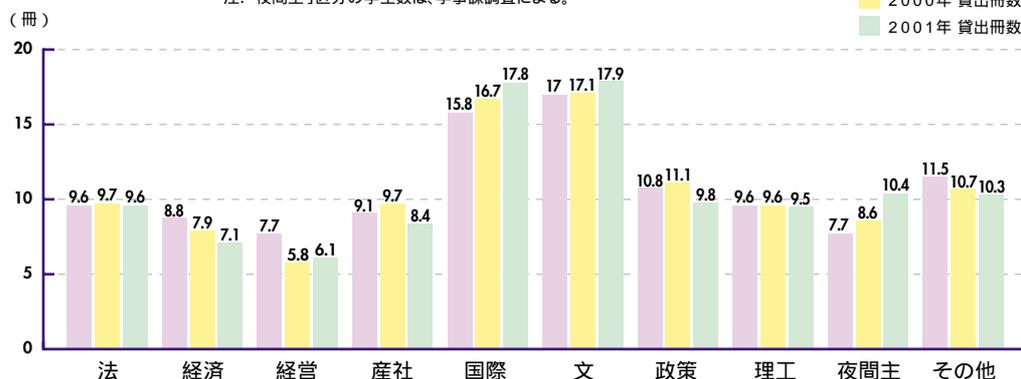
1997年以降の館外貸出冊数の推移は以下の通りです。1998年度から1999年度にかけて約2万7千冊貸出冊数は増加しております。1999年度からは両キャンパスにおいて、新入生ガイダンスや資料検索セミナーを本格的に開始しました。特に、メディアライブラリーにおける経済学部・経営学部を対象とした新入生ガイダンスでは、各種データベースの活用方法のみならず、学部の教学内容に即した図書資料の紹介も行いました。教学部門との連携によるガイダンスなどが一定の成果を上げ、館内の情報機器の利用を中心に利用者呼び込むことには成功したといえるでしょう。今後はさらに図書館の利用を進めるため、授業、特にゼミとの連携や学生の利用したい資料の把握に課題設定をシフトしていく必要があることと、メディアセンターでの取り組みに資する資料の刷新についても検討を進めます。

【全学貸出冊数】



【学部別学術情報施設学生一人当たりの貸出冊数】

注:「夜間主」区分の学生数は、学事課調査による。



5) 本学学術情報施設の客観的状況

社団法人日本私立大学連盟発行『大学図書館実態調査』(平成11年度版～平成13年度版)に基づく11私立大学調査による

蔵書冊数の経年推移



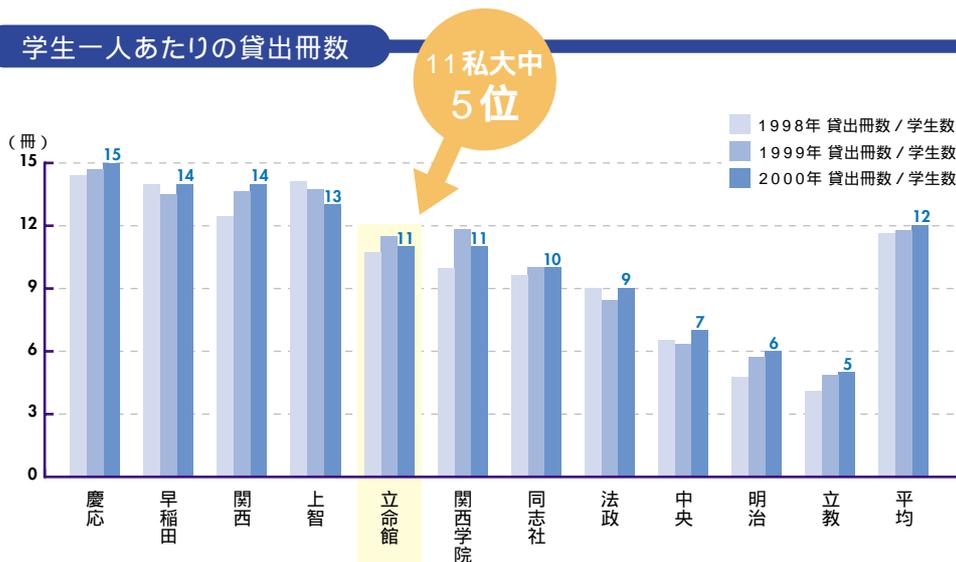
蔵書冊数においては、確実に増加を続けており、2000年度の立命館アジア太平洋大学開学とともに学園の資料規模は227万冊を超えています。11私大平均における1998年度から2000年度の蔵書冊数増加率は5%となっておりますが、本学の増加率は6%となっております。これらの資料を収蔵するスペース(書庫)をどのように確保するのが大きな課題となっています。それに加えて、オンラインジャーナルやCD-ROMなどの導入についても検討しています。

開館日数の経年推移



衣笠図書館の年間315日の開館日数は、11私大のトップとなっており、この位置は3年間変わっていません。また、図書館開館時間に関する全学的要請(1999年度全学協議会確認)を受けて、2000年11月からは閉館時間を午後9時30分から午後10時に変更し、30分間の開館時間延長を実施しました。この開館時間延長によって総開館時間数は3312.5時間となり、図書館サービス基盤の強化という点では、全国的に十分誇ることができると言えます。

学生一人あたりの貸出冊数



蔵書冊数が11私大中4位であるのに対し、学生一人あたりの貸出冊数は11私大中5位となっています。今後更に正課との連携を強め、学習・教育・研究の推進を可能にするような資料収集に努めます。

COLUMN

学生の「学びと成長」を支える総合情報センター RAINBOW STAFFの活躍の場がひろがりました

RAINBOW STAFFとは、各キャンパスの情報システム課窓口やオープンパソコンルームにて利用者相談や障害対応にあたる学生スタッフです。2002年5月現在、両キャンパスで117名となっています。

RAINBOW STAFFに対する評価が高まるにつれ、その活動の場がひろがりつつあります。2001年度からは学内の各種講習会の講師や各課のホームページ作成などの業務支援を行い、学外では京都市およびKBS京都から依頼のあったIT講習会の講師を担当しました。



ライブラリースタッフを迎えました

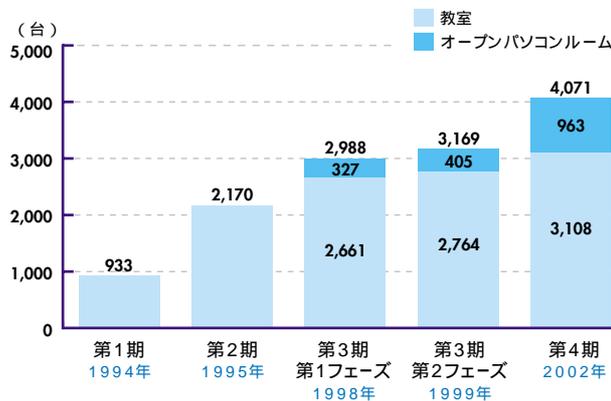
RAINBOW STAFFでの経験と実績を基に、2001年12月より学術情報部門には、約100名のライブラリースタッフを迎えることができました。利用者支援業務としては、閲覧統計の作成援助や各種講習会の講師補助として、あるいは電子図書館の構築に向けては、資料のデジタル化などに取り組んでいます。今後も、学生のもつ無限の力を学術情報サービスに発揮してもらえものと期待しています。



1) 2001年度の情報基盤整備

2001年度は4年に1度、学内情報環境を刷新・リプレースする第4期情報基盤整備の開始年度でした。第1フェーズとして2001年夏期休暇中に衣笠、BKC両キャンパスにおいてマルチメディア対応教室(衣笠6教室、BKC8教室)の整備、マルチメディアルームの新規整備(存心館1F、アクロスウイング1F)を行いました。第2フェーズとしては、2002年2月から3月にかけてBKC、衣笠洋洋館の情報教室および情報関連施設の機器リプレースを行い、両キャンパスにおいて学生が集まりやすいラウンジなどを中心に無線LAN網(IEEE802.11b方式)を整備しました。この無線LAN網は、2002年度に計画されている第3フェーズにおいてさらに規模を拡大する予定です。

一方、学生の自習環境として、衣笠は存心館1Fに160台、BKCはアクロスウイング1Fに196台のパソコンを備えたマルチメディアルームを新設しました。また、メディアセンター、メディアライブラリーもそれぞれ122台、174台に増設しました。設置したパソコンにはCD-RWドライブ、PCカードスロットを搭載しており、学生の多様なニーズに応えています。

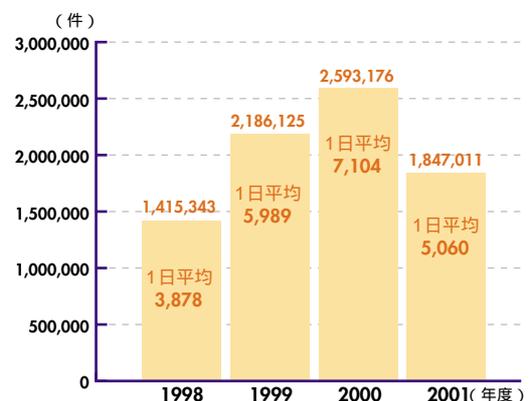


1994～2002年 全コンピュータ設置台数の推移

2) PPP回線へのアクセス総数の推移

電子メールやWWWなどの各種ネットワークサービスを提供するサーバマシンは、365日24時間稼働しています。RAINBOWユーザはNTTなどの公衆回線(アナログ、デジタル、PHS)を経由して自宅のパソコンからRAINBOWにアクセスし、いつでも各種サービスを利用することができます。現在、PPP回線は各キャンパスに207回線、合計414回線を整備しています。

一方で、近年は民間プロバイダーの増加と低価格化やADSLをはじめとするブロードバンドサービスが急速に発達、普及してきています。これまでPPP回線へのアクセス総数は増加の一方でしたが、2001年度は初めて減少に転じました。



1998～2001年度 PPPアクセス総数の推移

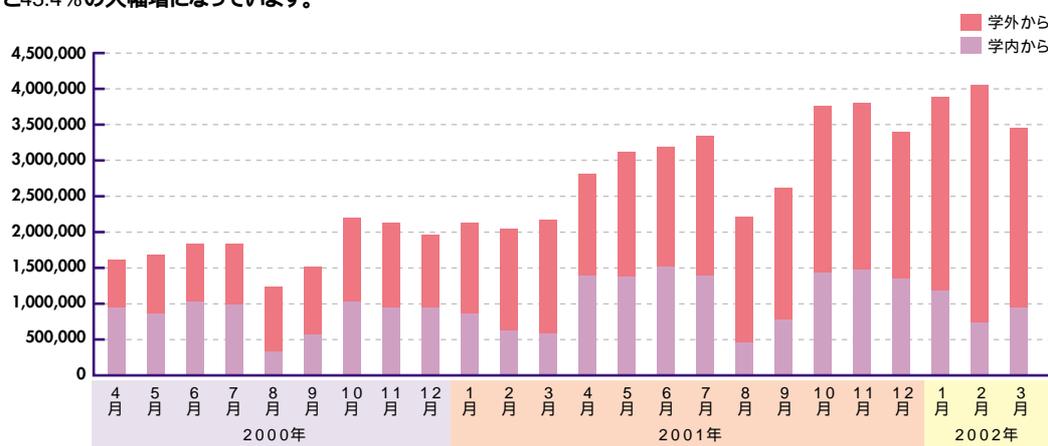
3) 教材作成支援 / マルチメディア対応

第4期情報基盤整備第2フェーズにおいてはメディアラボ1～3(BKC)のうち、メディアラボ1を小集団でのプレゼンテーションルームに改装し、メディアラボ2、3についてPC・AV機器類の増強を図りました。さらに教員はもとより、TAや学生スタッフを教材作成支援に活用するための作業場所として、従来の恒心館1Fオープンパソコンルームとアクロスウイング4Fパソコンルームをデジタル教材作成室として改装し、2002年6月25日よりオープンしています。

また、教育IT化支援室を開室し、WebCTの利用促進や教材作成支援等を実施しています。

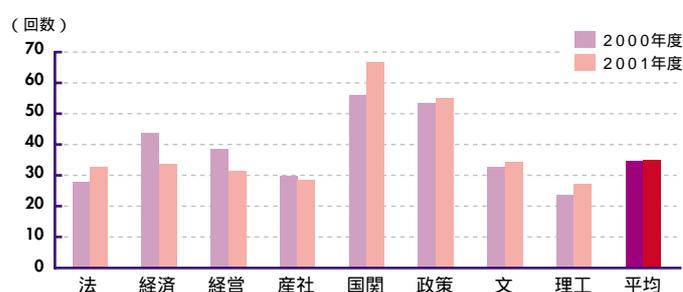
4) 立命館WWWへのアクセス数の推移

2001年1月に立命館のホームページがリニューアルされました。また、12月には、トップページを含めた全面的見直しを行い、より情報量が豊富になりました。この結果、立命館ホームページへのアクセスが増加するとともに、ホームページでの情報発信は、重要な広報手段として定着してきました。月平均アクセス数は2000年度1,891,207回、2001年度3,340,503回と43.4%の大幅増になっています。



5) オープンパソコンルームの利用状況

各キャンパスのオープンパソコンルーム(NTのみ)の2001年度年間総利用回数は1,086,164回となっており、各学部別の2001年度の学生1人あたりの利用回数は図のように1年間に平均で約35回となっています。



(注)

学生一人あたりの学部別
オープンパソコンルーム利用回数

=

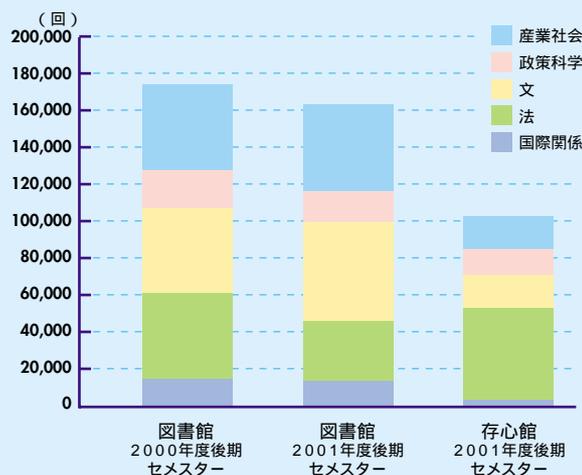
各学部学生の年間
オープンパソコンルーム利用総数

各学部学生数

衣笠キャンパス

図書館オープンパソコンルームと
存心館マルチメディアルームの利用状況
(2000年度と2001年度の9月～3月データ)

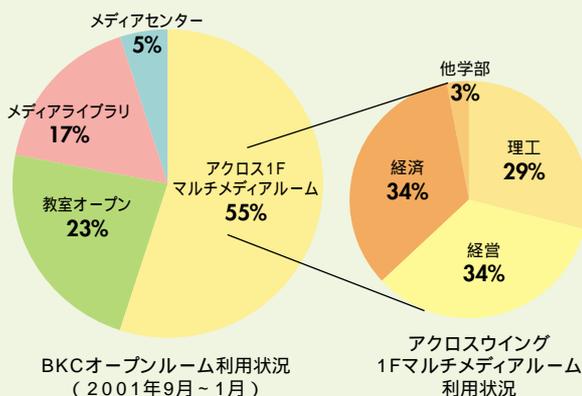
衣笠キャンパスのオープンパソコンルーム全4ヶ所のうち、図書館と存心館の学部別利用回数は次の図の通りです。図書館は他のオープンパソコンルームにくらべ利用率が高くなっています。これは、図書館の本を持ち込んで利用できる点に加え、立地条件的にも学生が集まりやすいためと考えています。2001年度後期から開室した存心館マルチメディアルームは図書館の混雑緩和の効果と法学部を中心とした潜在的なニーズを掘り起こしたといえます。2002年度後半からデータベースを拡充します。それに伴い、利用はさらに高まると予想されます。



びわこ・くさつキャンパス

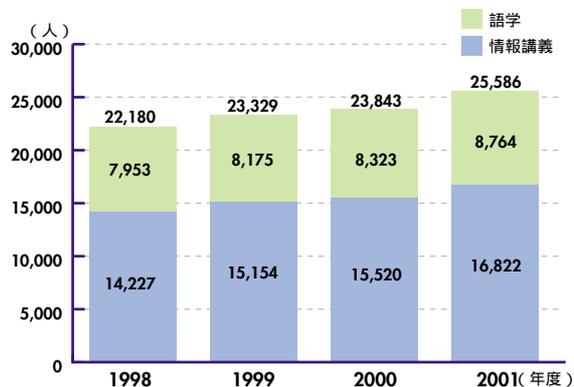
びわこ・くさつキャンパスの利用状況

びわこ・くさつキャンパスの利用状況としては、9月にアクロスウイング1Fマルチメディアルームが開室したことにより、同ルームの利用率が大変高く、学部別の利用状況も3学部ともにほぼ同じ割合となっています。これは、設置台数の多さと学生動線上という立地条件の良さであると考えています。



6) 情報教室利用授業受講者数推移

情報処理授業は年々増加しているため、受講者数も増加しています。衣笠キャンパスでは、1999年度から「情報リテラシー講義」を実施し、学生の基礎的情報スキルの底上げを図っています。2000年度からはこの講座を正課として外部委託業者による講義を行いより高度な講義を展開しています。また、2001年度にはBKCにて語学教室を増設し、理工学部の語学授業での情報教室の利用が増えてきています。

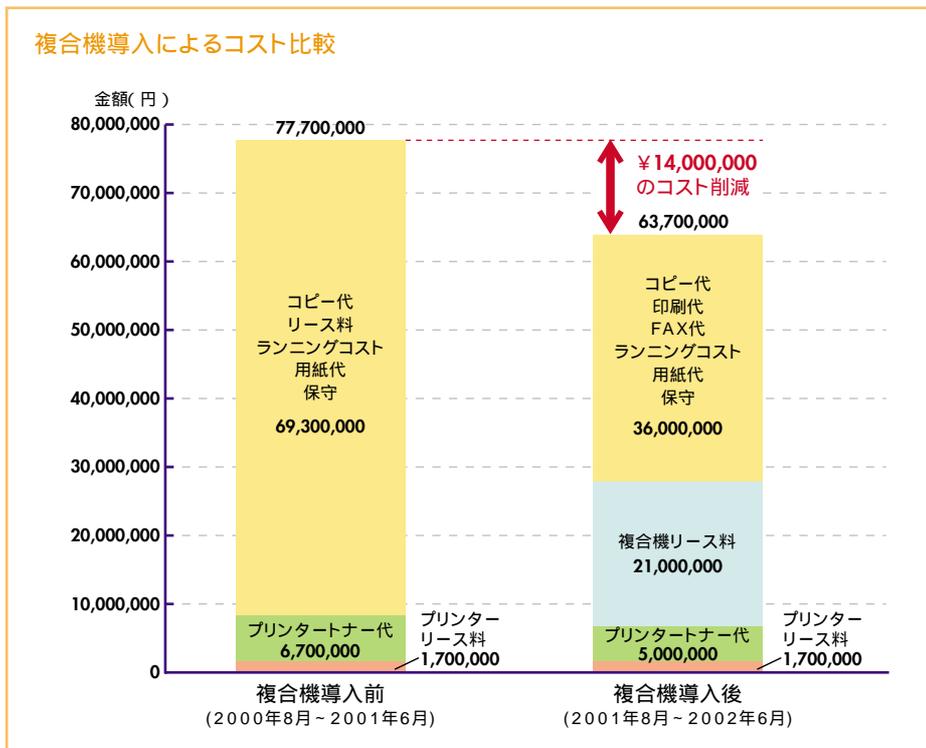


情報教室利用授業受講者数推移

7) 複合機

2001年度に立命館大学の各部課に導入した複合機は、コピー・プリンター・FAX・スキャナーの各機能を1台に集約し、従来の紙媒体の文書をデジタル化することを可能にしました。これにより、複合機を導入した各部課ではデジタル化した文書の共有が進み、業務の効率化を図ることができました。またトナー・用紙などの消耗品に関する大幅なコストダウンを図りました。

図は複合機を導入した2001年8月～2002年6月までの使用実数をもとに前年の同期間と比較したものです。コピー・印刷経費は、前年の約半分まで削減しています。全体では、コピー機を複合機に変えた場合の経費は、11ヶ月で約1,400万円の削減となっています。



8) テレビ会議室利用状況

2000年度よりサービスを開始した現在のテレビ会議システムは、機関会議を始めとして各キャンパスにまたがる業務会議、各種委員会の開催に非常に効果的に活用されています。各会議室の年間平均稼働率は67%になり、最も使用されている会議室では80%を超えています。

2001年のある1ヶ月に、機関会議、各種委員会、業務会議などでテレビ会議システムを利用した会議を調査し、会議をテレビ会議室を使用せず、衣笠に集まって行った場合を考えると¥3,565,320の交通費が発生します。年間では¥35,653,200(休暇や入試等を考慮し10ヶ月分で算出)の交通費がかかることとなります。実際学園では日々数多くの各キャンパスにまたがる会議が行われており、テレビ会議システムのコスト削減効果は非常に大きいことが伺えます。

(注) 衣笠・BKC間交通費¥600(シャトルバス往復)、衣笠・APU交通費¥33,360(往復航空機利用)で試算

INFORMATION

RAINBOW無線LAN網を整備しました

2002年4月より無線LANシステムを導入し、文字通りワイヤレスで学内LANにアクセスすることが可能です。ノートパソコンを持っていれば、無線LANカードを装着することにより、好きな時に好きな場所でオープンパソコンルームと同様にWWW、メール、データベース検索サービス等の各種サービスを利用することができます。

アクセス可能エリアとして、衣笠は学生の皆さんのスペースである各学部基本棟のラウンジや談話室をはじめ、図書館の閲覧室や一部教室などで、BKCにおいてもアクロスウイングラウンジやユニオンスクエアオープンスペースとメディアセンター・メディアライブラリの閲覧室、一部教室などです。



無線LANカードについて(IEEE802.11b方式)

情報システム課では多数の無線LANカードのなかでも、性能/価格/設定方法の簡単さから下記のカードを推奨します。

メルコ製無線LANカード(WLI-PCM-L11GP 定価¥9,800)生協売価¥8,800

*動作確認OS WIN 9x/Me/NT4.0/2000/XP

上記カード以外にも下記記載のカードで動作することを確認しています。ただし、メルコのカード以外のマニュアルは用意していませんので、PCの設定等に不安がある方はメルコ製カードを購入してください。最近は無線LAN機能を標準装備したパソコンが各メーカーより販売されており、そのようなモデルであれば別途無線LANカードを購入する必要はありません。ただし、DDIポケットの64kbpsデータ通信機能「H'IN」(エッジイン)モデルについては、それ自体を使用してRAINBOWの無線LANに接続することは出来ません。

動作確認カード	メーカー	型番	定価	動作確認OS
	RoamAbout	CSIBD-AJ	¥29,800	WIN9x/Me/NT4.0/2000/XP/MacOS
	アライドテレシス	WR211PCMplus	¥11,800	WIN9x/Me/NT4.0/2000
	I/ODATA	WN-B11/PCM	¥8,500	
	Laneed	LD-WL11/PCC	¥16,800	
	NEC	AtermWL11CA	open	

尚、無線LANを利用するにあたって特別な手続きなどは必要ありません。NetscapeなどのWebブラウザを起動するとユーザー認証画面が開くので、RAINBOWユーザーIDとUNIXシステムのパスワードを入力すれば利用可能になります。無線LANカードの取り扱い、パソコンの設定方法などは情報システム課窓口でマニュアルを用意しているほか、アクセス可能エリアの詳細などはRAINBOWホームページにも掲載していますのでご参照ください。

語学自習にご活用下さい ~ 洋洋館情報語学自習室 ~

全台(40台)にTOEFL CBT模擬テストソフトをインストールしていますので、いつでも手軽に受験することができます。また、マイク付ヘッドセットを全台に装備していますので、市販の語学自習用CD-ROM教材などを持ち込んで利用することもできます。

(ただし、環境によって正常に動作しないものがありますので、ご注意ください。利用したいCD-ROM教材の動作については、ご自身でご確認いただくか、情報システム課までお問い合わせください。)

【利用時間(開講期間中)】

月~金 9:00~18:00(利用終了時間は17:45)

【場所】

洋洋館4F 972号「情報語学自習室」

カードリーダーに学生証を通して入室できます。語学自習目的以外の利用は禁止します。

